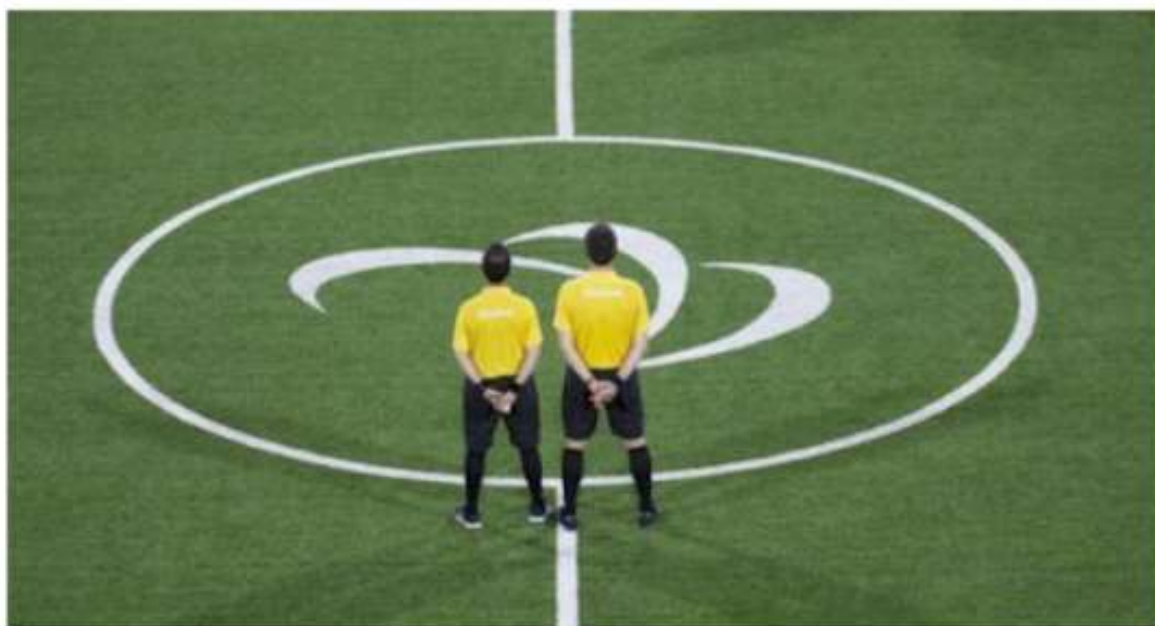


ブラインドサッカー 審判 ガイドライン (日本語版)



このマニュアルはUEFAのサポートを受けて、IBSA Football Committeeによって発行された

著者: Mariano Travaglini

© IBSA 2022. All rights reserved. The contents of this Referee Manual may be reproduced with permission from the rights holders.

男性と女性の人称代名詞は、この文書全体で無作為に使用されており、両方の性別を指すものと解釈すること。

ガイドラインの目的	3
ブラインドサッカーとは？	4
競技者のアイパッチ	7
審判の言語	9
試合前、試合中、試合後の任務	10
コイントスからキックオフまで	18
コーナーキック	21
ゴールクリアランス	22
フリーキック	24
審判のシグナル	27
第2ペナルティーキック	31
ペナルティーキック	32



ガイドラインの目的

審判およびオフィシャルの存在と働きがなければ、ブラインドサッカーの試合は開催できない。IBSA フットボール小委員会は、試合が競技規則とスポーツの精神に則って行われるために、審判とオフィシャルが果たす重要な役割を認識している。

このガイドラインの目的は、ブラインドサッカーの審判に正当な権限を与え、すべてのチームと競技者に対してポジティブな判定経験ができるようなスキルを提供し、ブラインドサッカーの審判がブラインドサッカーにおける自分の役割をより深く理解できるようにすることである。

これは、世界中のすべての視覚障害者および弱視の少女、少年、女性、男性に、希望するレベルでサッカーをプレーする機会を与えるというIBSA サッカー委員会のより大きな使命の一部である。



ブラインドサッカーとは？

ブラインドサッカーは視覚障害のある競技者に適合させたサッカーの一つの形である。

チームには4人の視覚障害のあるフィールドプレーヤーと1人の晴眼もしくは弱視のゴールキーパーからなる5人の競技者がいる。

ブラインドサッカーは、国際ブラインドスポーツ連盟 (IBSA) によって管轄されている。最初の公式国際大会は 1997 年に開催され、それ以来、IBSA は世界各地で様々な国際大会と普及の機会を実施してきた。

ブラインドサッカーは、2004 年のアテネパラリンピック大会からパラリンピックの種目として採用された。

FIFAフットサル競技規則とブラインドサッカー競技規則との主な相違は以下のとおり

- フェンス – ブラインドサッカーは、標準的な20 メートル x 40 メートルのフットサルピッチでプレーされる。フェンスはピッチ両側の長いサイドに沿って配置され、ボールが外に出るのを防ぐことと、より流れるようなゲームを可能にしている。



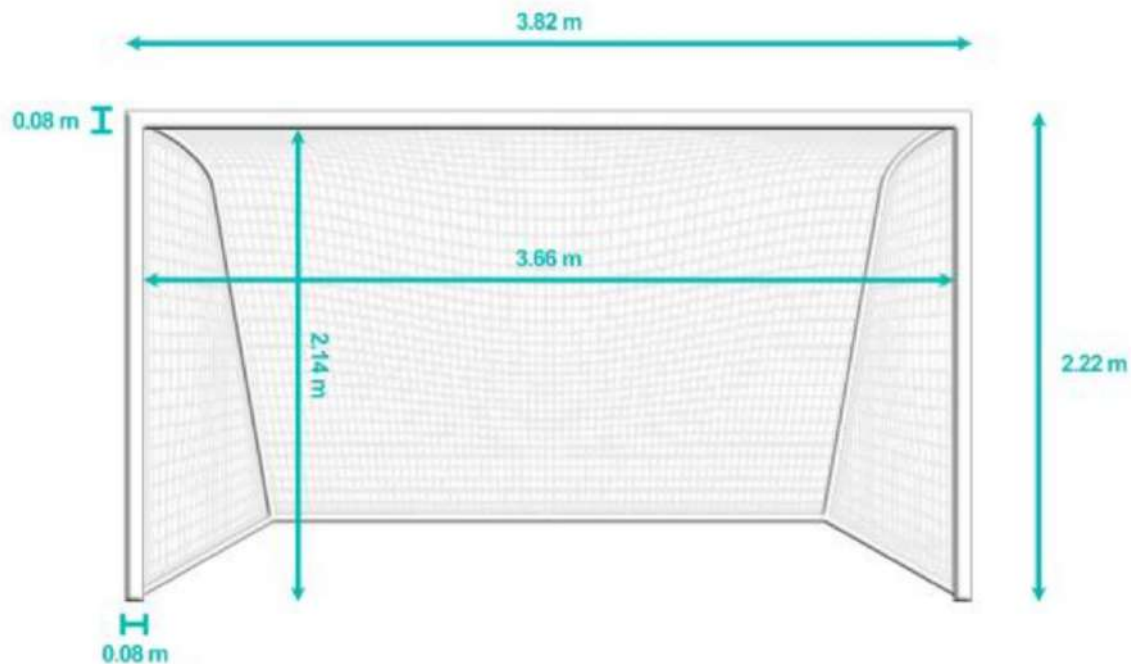
- ボール – ボールには音源システムが内蔵されており、ボールが動くと音がする。これにより、競技者はボールを追いかけて、ボールがどこにあるかを常に把握することができる。



- アイシェード – 公式大会では、プレーヤーはアイパッチと承認されたアイシェードを着用する必要がある。これは、競技の公平性を確保するために必要である。なぜなら一部のプレーヤーには、一定の視力が残っており、他のプレーヤーよりも有利になる可能性があるためである。



- ゴール – ブラインドサッカーのゴールの内側のサイズは 3.66 メートル x 2.14 メートル。



- 「ボイ」ルール – ボールに挑む競技者は、相手競技者にプレーしようとしていることを知らせるために、「ボイ」（「voy」スペイン語で「I go」の意味）または同様の短い言葉を言わなければならない。同様に、ボールが保持されておらず、競技者がボールを探している場合、またはボールをコントロールしようとしている場合も、「ボイ」を言わなければならない。
競技者がボールをコントロールして走っている場合、その競技者は何も言う必要はない。

ブラインドサッカーの競技規則は定期的に更新されており、最新の競技規則は以下で確認できる。

<https://blindfootball.sport/about-football/rules-and-downloads/>

競技者のアイパッチ

ブラインドサッカーの競技者はアイパッチを装着し、公式に認められたアイシェードを正しく着用する必要がある。

試合開始前と試合中、審判にはこれらの用具が正しく装着されているかを確認する責任がある。

- フィールドプレイヤーのアイパッチの装着方法

Step 1



Step 2

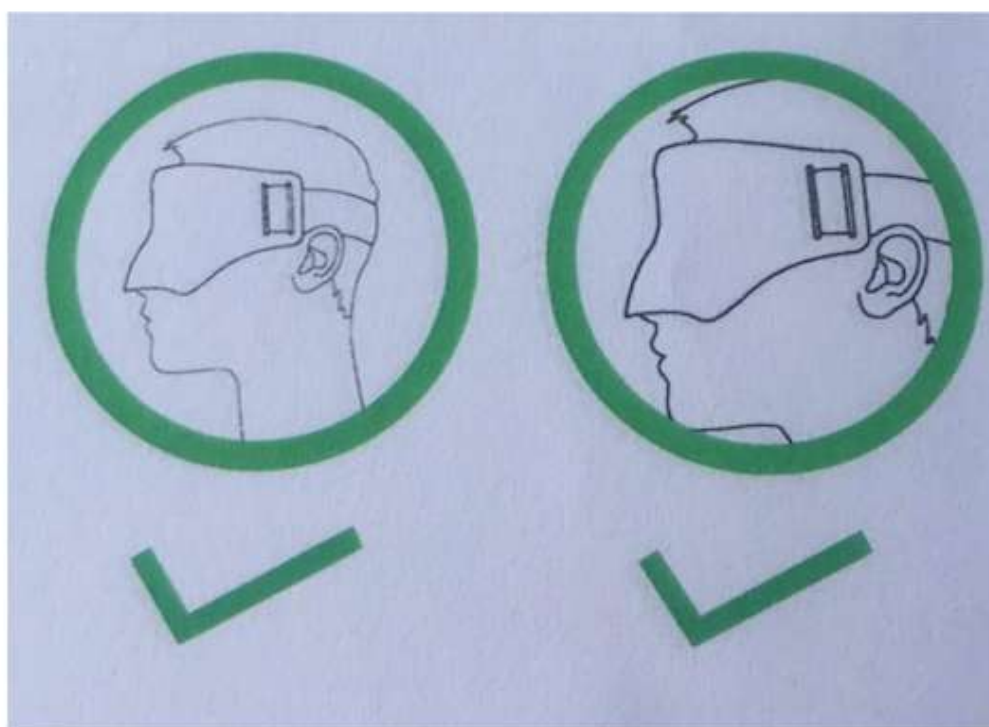
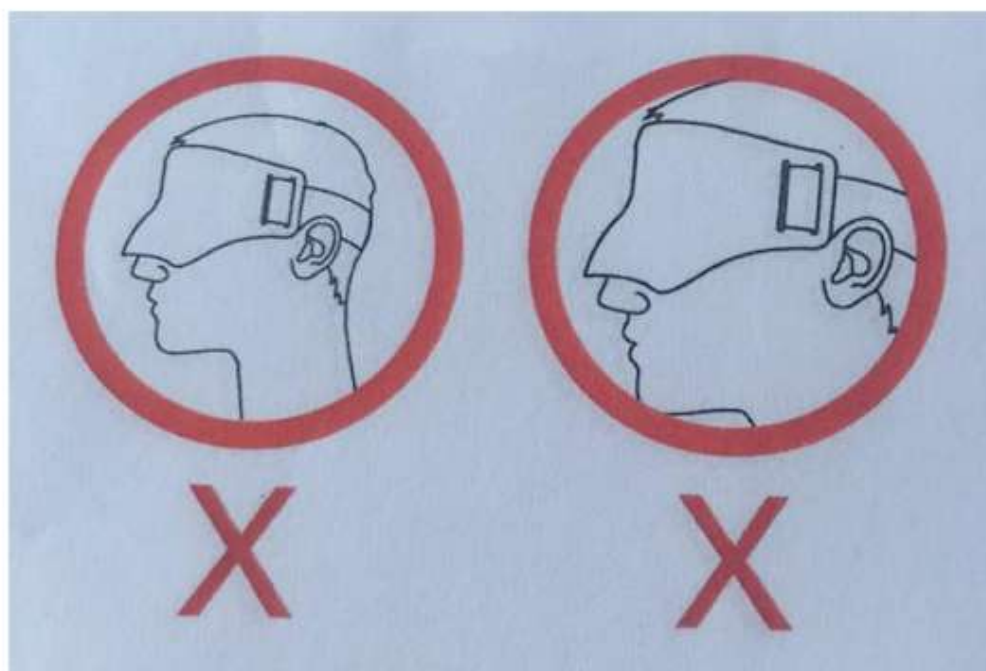


Step 3



- 公式アイシェードの正しい装着方法

アイシェードは鼻を覆い、光が知覚される可能性を排除し、競技者を正しく保護する必要がある。





審判の言語

ブラインドサッカーは世界中でプレーされている。審判はあらゆる競技者とコミュニケーションを取る必要がある。IBSAの公式言語は英語であるが、すべての審判と競技者が英語を話せるわけではない。では審判はどのように世界中でコミュニケーションをとるか？答えは簡単、笛を吹くことと簡単な英語を使うこと。

- 笛：笛の音色と強さを調整することが大切である。大きな笛は重大なファウルを意味する。短い笛はプレーの再開に適している。Blindの競技者にとっては笛の音をもたらす情報が重要になるので、試合中に起こる様々な事象に対して笛の音を適切に使い分けることがとても大切になる。
- 簡単な英語でのコミュニケーション：英語のレベルや知識は重要ではない。審判は短い文章と単純な単語を使ってコミュニケーションをとる必要がある。審判はすべての競技者が英語を話せるわけではないことを考慮するべきだが、審判が簡単な単語を使うことでコミュニケーションは可能になる。
- ブラインドサッカーにおける共通言語
 - “Corner”
 - “Goalkeeper” (ゴールクリアランスのとき)
 - “Keeper ready?” “Silence” “Guide” (ファウル後のセレモニー)
 - “Say voy” (試合中の注意喚起)
 - “No hands” (試合中の注意喚起)
 - “Five metres” (距離をとらせる)
 - “Time Out” “Referee Time Out”
 - “Drop ball”
 - “One” (秒数を数える)
 - “Referee control” (アイシェード、アイパッチのチェック)



試合前、試合中、試合後の任務

審判チーム

試合は以下の役割の6人からなる審判チームによって行われる。

- ・主審：ピッチの中において、カードを示せる
- ・第2審判：ピッチの中にいる
- ・第3審判：ピッチの外で両チームベンチコントロールを担当する
- ・第4審判：ピッチの外で両チームベンチコントロールを担当する
- ・第5審判：スコアシートをつける（スコアラール）
- ・第6審判：時間を管理する（タイムキーパー）

試合前の任務

キックオフ90分前

- ・第3審判、第4審判は必要な数のアイパッチ、テープとチームリストをチームに届ける。チームはそのチームリストに大文字で5人の先発（4人のB1競技者とゴールキーパー）と5人の交代要員（4人のB1競技者とゴールキーパー）の名前と番号と5人のチームスタッフを記入する。チームに通訳がいる場合、通訳はチームリストにもスコアシートにも記入されない。

キックオフ60分前

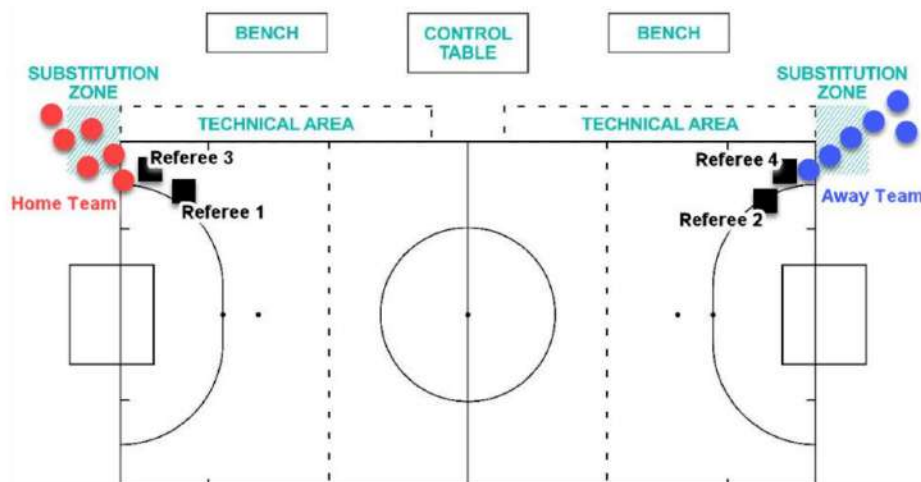
- ・第3審判、第4審判は両チームにチームリストを提出するよう促す。第3審判、第4審判はそれらのチームリストをスコアラーに渡す。第3審判、第4審判はIBSA公式のアイシェードをチームから受け取り、それらの状態を確認し、問題がある場合には交換する。
- ・スコアラーは第3審判、第4審判からチームリストを受け取り、スコアシートに記入する。
- ・主審は試合で使うボールの空気圧を確認する。同時に第3審判（および第4審判）は両チームのための交代用紙とペン、タイムアウトカードを揃えたボードを準備する。第3審判（および第4審判）は交代ボードに問題がないことを確認する。
- ・スコアラーはコントロールテーブルに赤ペン2本、青ペン2本、黒ペン2本、定規2本、修正ペン2本、累積ファウルの数を示す設備、緊急時のための予備アイパッチ、IBSA公式アイシェード、ストップウォッチ2つ、タイムアウトを音で知らせる設備、予備の試合球1つ、空気入れ1つが揃っていることを確認する。

キックオフ32分前

- ・タイムキーパーはピッチでの公式ウォーミングアップの20分を計測するタイマーをスタートさせる。
- ・主審、第2審判はピッチの外でウォーミングアップを始める。

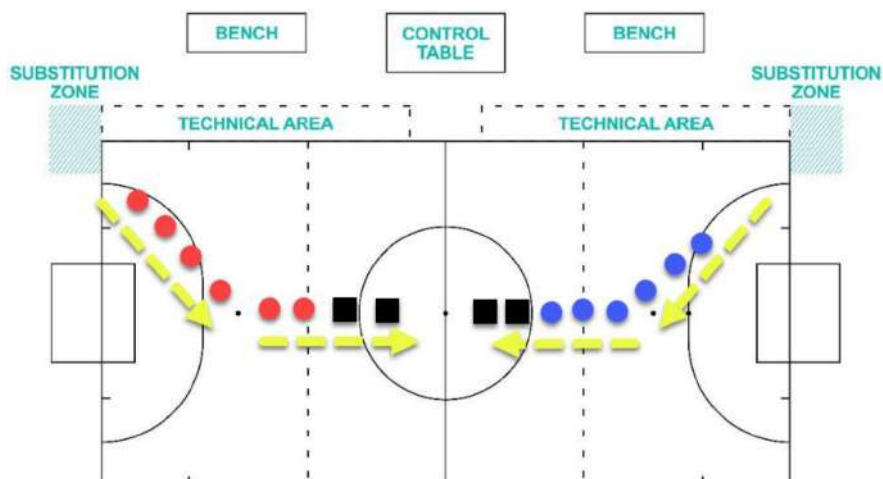
キックオフ13分前

- ・主審、第2審判はピッチに入場する場所で、先発競技者のユニフォームとアイパッチの確認をするために両チームを待つ。
- ・第3審判、第4審判は交代要員のユニフォームとアイパッチを確認する。
- ・一方のチームの責任で試合開始が遅れた場合、主審はそのチームのコーチにイエローカードを示して警告する。



ピッチへの入場

- 主審は第3審判を伴ってホームチームを先導する。第2審判は第4審判を伴ってアウェイチームを先導する。



キックオフ1分前

- 第3審判はボードに交代用紙、ペン、タイムアウトカード（交代用紙とは分ける）を揃えてホームチームに渡す。第4審判はアウェイチームに同じものを渡す。主審、第2審判はピッチ内にいる競技者のアイパッチを再び確認し、ゴールネットを確認し、ガイド、ゴールキーパー、コーチにガイドエリアを守るよう注意する。

試合中の任務

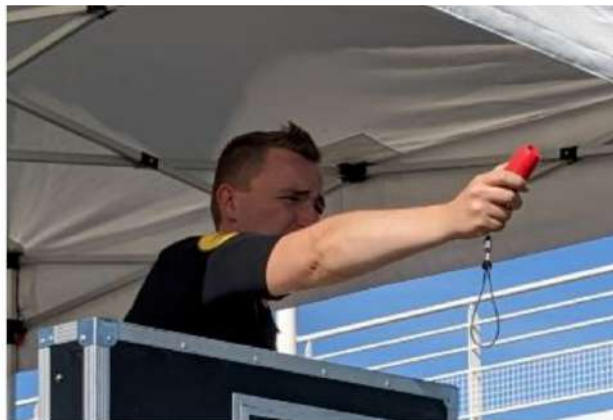
交代

交代は以下の手順で行う

1. コーチが交代用紙を第3審判または第4審判に渡す。
2. 第3審判または第4審判はその交代用紙をタイムキーパーに渡す。
3. タイムキーパーは試合のコントロールを続けながら、第3審判または第4審判とピッチに入る予定の交代要員に注意を払う。
4. 第3審判または第4審判は交代ゾーンへ行き、ピッチに入る交代要員を待ち、用具、アイパッチの確認ができたならタイムキーパーへアイコンタクトと親指を上げるシグナルで合図する。



5. タイムキーパーはボールがアウトオブプレーになったときに交代があることを音で知らせる。



6. 交代で退く競技者は自らピッチを出る。
7. タイムキーパーは交代用紙をスコアラーに渡す。スコアラーはスコアシートに交代の内容を記録する。
8. スコアラーは交代用紙を第3審判または第4審判に返す。
9. 第3審判または第4審判はコーチに交代用紙を返す。

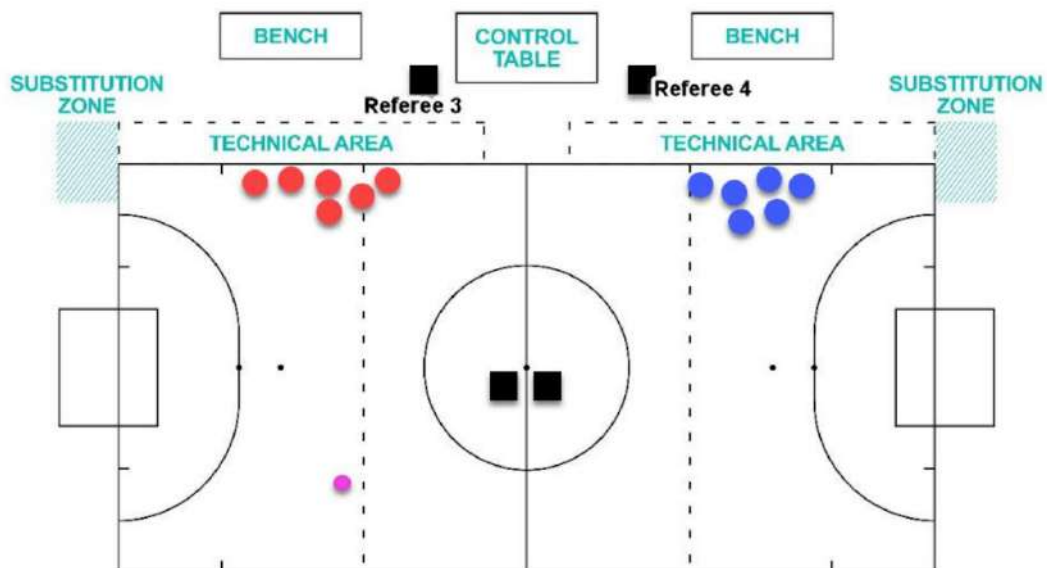
タイムアウト

タイムアウトは以下の手順で行う

1. コーチは第3審判または第4審判にタイムアウトカードを渡す。
2. 第3審判または第4審判はタイムキーパーにタイムアウトカードを渡す。
3. タイムキーパーは競技規則にしたがって時計を止め、タイムアウトを主審、第2審判とは異なる音色で知らせる。タイムキーパーは主審に向かってタイムアウトのシグナルを示す。



4. 主審はタイムアウトを了承し、チームに知らせる。
5. 主審、第2審判は手によるシグナルを示すことなく、コントロールテーブルの方を向いてセンターサークルに立ち、競技者を監視する。その際ボールは試合を再開する場所に置いておく。





6. タイムキーパーはタイムアウトの1分間を計測する。
7. スコアラーはスコアシートにタイムアウトの時間を記録する。
8. タイムキーパーはタイムアウトの終了を音で知らせる。
9. 主審、第2審判は競技者のアイパッチを確認する。

- ・第2ピリオド開始前に第3審判、第4審判はコーチにタイムアウトカードを再び渡す。
- ・タイムアウトを使っていない場合、試合終了時に第3審判、第4審判はコーチからタイムアウトカードを回収する。

ハーフタイム

- ・タイムキーパーはハーフタイムの10分の計測を始める。
- ・ハーフタイム終了4分前に主審、第2審判はセンターサークルに立ち、チームを待つ。
- ・ハーフタイム終了3分前に第3審判、第4審判はチームにピッチへ戻るよう知らせる。
- ・ハーフタイム終了1分前に主審、第2審判は競技者のアイパッチとゴールネットを確認する。
- ・一方のチームの責任で第2ピリオドの開始が遅れた場合、主審はそのチームのコーチにイエローカードを示して警告する。

アシスタントレフェリー (スコアラー、タイムキーパー)

試合中、スコアラー、タイムキーパーはコントロールテーブルに食べ物飲み物がないように注意する。同様に試合に任命されていない審判や試合に関係のない者がコントロールテーブルの周囲にいないようにする。

累積ファウル

試合中に累積ファウルが起これば、審判団は以下の手順で対応すること

1. スコアラーはそのファウルが累積ファウルか否かを確認するために、笛を吹いた主審または第2審判とアイコンタクトをとる。
2. スコアラーは主審または第2審判がファウルの種類を告げるまでスコアシートに何も記入しない。
3. スコアラーは主審または第2審判のシグナルが完了するまで注目する。
4. スコアラーは主審または第2審判に親指を立ててシグナルが確認できたことを示す。



5. 主審または第2審判はコントロールテーブルを向いてスコアラーのシグナルを待つ。
 6. 試合を再開する
 7. スコアラーはスコアシートにファウルを記入する。
 8. スコアラーは累積ファウルの数を表示する。
- ・ 4つ目の累積ファウルの場合、スコアラーは主審に状況を知らせる。主審は両チームに4つ目の累積ファウルであることを知らせる。
 - ・ 5つ目の累積ファウルの場合、スコアラーは第2ペナルティマークを手で指す。タイムキーパーは時計を止める。
 - ・ 主審、第2審判はファウルの記録を取らないが、ファウルの数には常に注意しておく。第3審判、第4審判、スコアラーはファウルの記録を取らなければならない。

試合後の任務

ピッチの中

- ・主審、第2審判はセンターサークルの外側に立ち両チームがピッチから出るのを待つ。
- ・主審、第2審判は一緒にピッチから出る。

ピッチの外

スコアシート

- ・スコアラールはスコアシートを完成させ、サインする。
- ・スコアラールは審判団の他のメンバーにサインさせる。タイムキーパー、第4審判、第3審判、第2審判の順。
- ・スコアラールはスコアシートを主審に渡す。主審はスコアシートの内容を確認し、イエローカードの記録をつける。主審はレッドカードの内容について報告書に記載する。イエローカードがあった場合、主審はスコアシートの裏面にチームおよび競技者の番号を記入する。例：カナダ 7番 イエローカード
- ・レッドカードがあった場合、主審はその内容をスコアシートの裏面に記入する。
- ・主審は最後にスコアシートにサインして、レフェリーコーディネーターに提出する。

備品

- ・第3審判、第4審判はゴール後方の試合球を回収し、両チームから交代用紙、タイムアウトカード、ペンを受け取る。その後すべての備品を主審に渡す。
- ・スコアラールはコントロールテーブルにあるすべての備品を集めて主審に渡す。
- ・主審はそれらすべての備品を次の試合の主審に渡す。

コイントスからキックオフまで

コイントスからキックオフまでの間に主審、第2審判にはピッチの中で行うべきいくつかのことがある。

- ボール：キックオフの場所を競技者に知らせる。主審はボールを鳴らしながらチーム名を言って競技者を呼び寄せ、第2審判は相手競技者がセンターサークルの外にいることを確認する。



- アイパッチチェック：主審、第2審判は競技者のアイパッチを確認する。主審、第2審判は競技者の近くへ行き、肩を触って“Referee control”と言う。その後アイパッチを確認する。



- ネット：主審、第2審判はゴールネットを確認する。
- ゾーン：主審、第2審判は12mの破線の地点に立ち、ガイドとゴールキーパーに“エリアを守って”と言って、ボールインプレー中に競技者に口頭で指示を与えられるエリア（12mライン）を腕で示す。



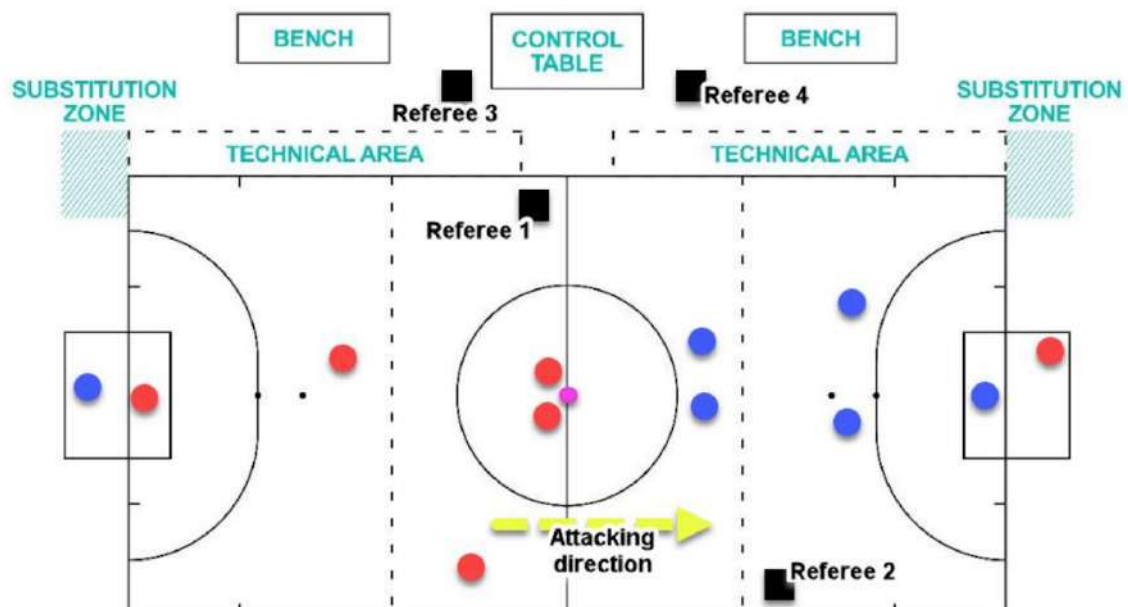
- 主審、第2審判はピッチ中央付近に立ち、主審が両チームのコーチに“エリアを守って”と言って、ボールインプレー中に競技者に口頭で指示を与えられるエリアを腕で示す。



- 距離の確認：主審、第2審判はすべての競技者が自陣にいて、守備側競技者がセンターサークルの外にいることを確認する。主審、第2審判が競技者に規定の距離をとらせる場合には常に競技者の肩を手の甲で優しく押して下がるせる。



- キックオフのポジション：主審、第2審判はキックオフのポジションにつく。主審は全員が正しいポジションにいてすべての準備が整っていることを目視で確認する。一方のゴールにいるガイドとゴールキーパーに“Guide? Goalkeeper?”と言い、第2審判とアイコンタクトし、もう一方のゴール方向に“Goalkeeper? Guide?”と言って、コントロールテーブルとアイコンタクトをとってから開始の笛を吹く。



コーナーキック

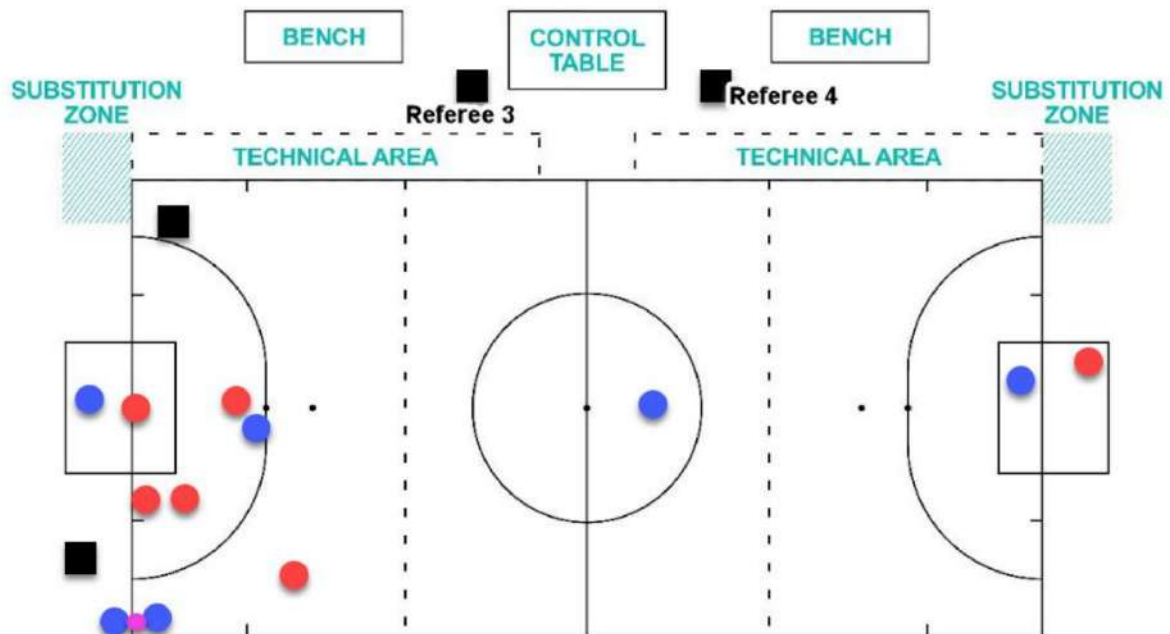
ボールがアウトオブプレーになってコーナーキックで再開するとき：

- ・主審または第2審判は笛を吹きボールアウトオブプレーになったことを示す。主審、第2審判は共に腕を上げてフェンスを背にしてコーナーを指す。主審、第2審判は共に“Corner”と宣告する。



- ・主審または第2審判はコーナーでボールを鳴らし競技者を呼び寄せる。守備側競技者の規定の距離を確認する。もう一方の審判とアイコンタクトし、再開の笛を（適度な音量で）吹いて試合を再開する。もう一方の審判はゴールキーパーエリアの2mラインにポジションをとる。

コーナーキックでの再開における主審、第2審判のポジションは以下のとおり



ゴールクリアランス

ボールがアウトオブプレーになってゴールクリアランスで再開するとき：

- ・主審または第2審判は笛を吹きボールアウトオブプレーになったことを示す。主審、第2審判は対角的にフェンスを背にしてゴールキーパーエリアを腕で指す。主審、第2審判は共に“Goalkeeper”と宣告する。主審または第2審判は決してゴールキーパーにボールを渡してはならない。

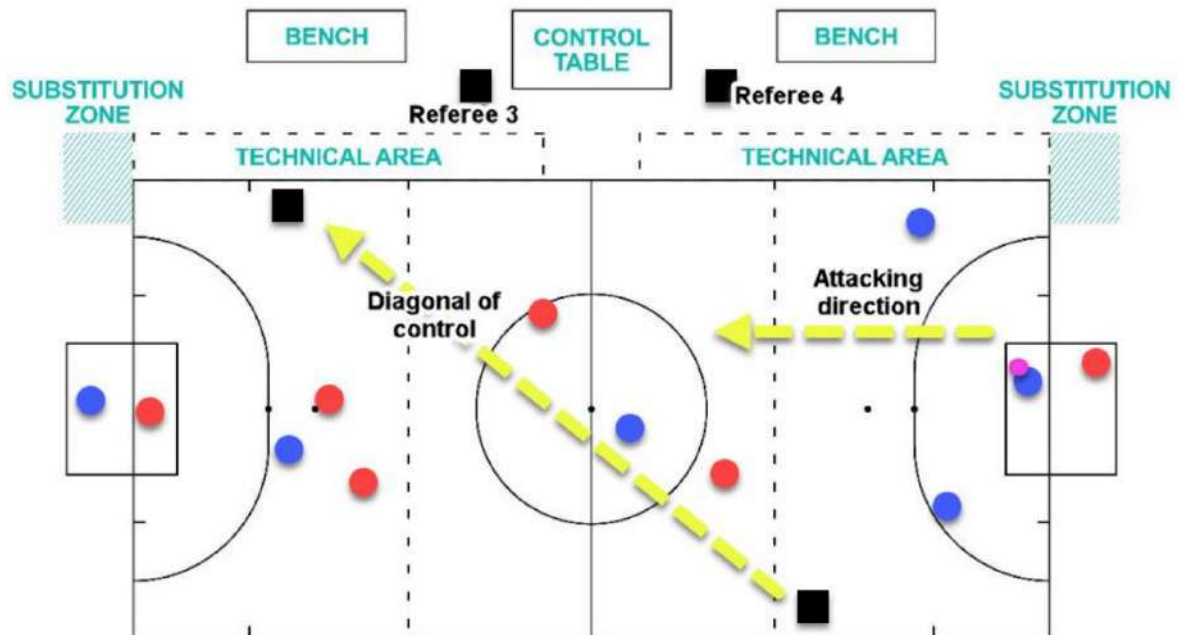


再開：試合を再開するため、ゴールキーパーに近い審判は12mのラインについて笛を吹き、指を立てて1 (one)を示し、“one”と声でカウントする。その後は指でカウントを続け、声は出さない。



もう一方の審判は最も前の攻撃側競技者を監視できる位置に行く。

ゴールクリアランスでの再開における主審、第2審判のポジションは以下のとおり



フリーキック

フリーキックが行われる際にはファウルの笛を吹いた主審または第2審判が

- 笛を吹く
- 腕で攻撃の方向を示す
- 試合が再開される場所へ走って行き、どこにボールを置くかを明確にする

ボールが再開場所から離れたところにある場合には、もう一方の審判はボールを転がして渡す。決してボールをキックしてはならない



累積ファウルがあった場合、ファウルの笛を吹いた主審または第2審判はコントロールテーブルに情報を伝えなければならない。再開される場所からコントロールテーブルとアイコンタクトをとり、以下のようにシグナルする。

➤ 攻撃（フリーキックが行われる）の方向



➤ （ファウルを犯した）競技者の番号



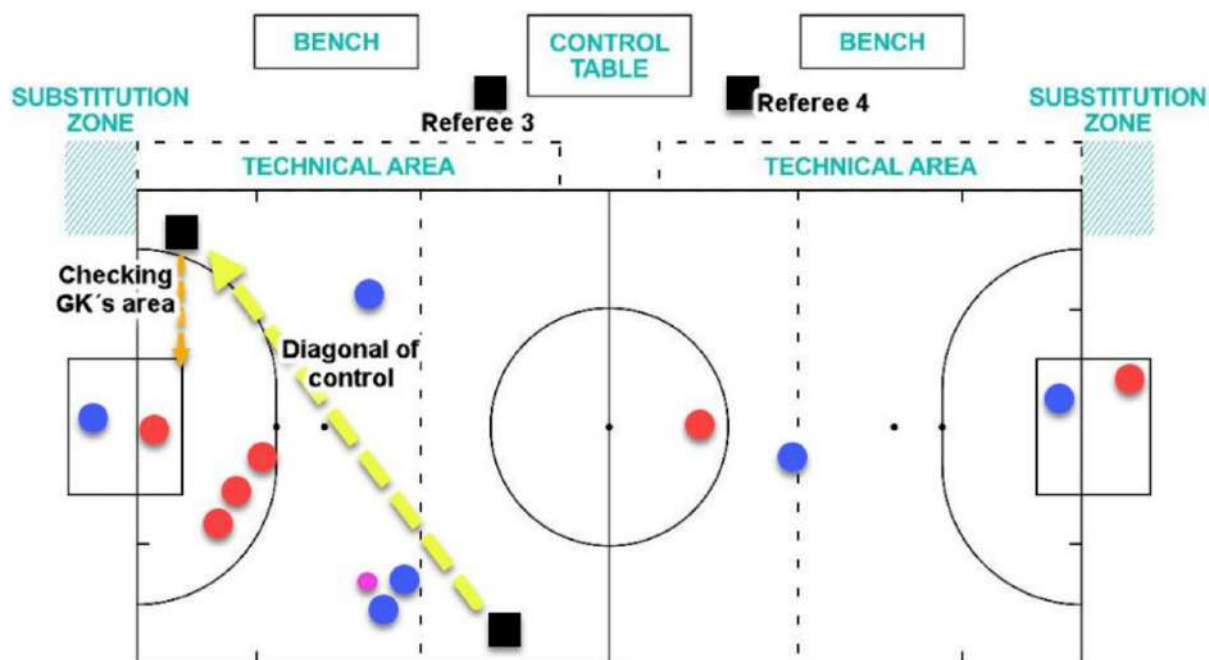
➤ 累積ファウル：主審または第2審判は指を立てて腕で円を描く



➤ コントロールテーブルの確認シグナルを待つ



- ・主審または第2審判はボールの音を鳴らして再開の位置を知らせ、攻撃側チームの競技者を呼び寄せる。（同じ審判が）相手競技者に規定の距離をとらせる。
- ・フリーキックが攻撃エリアで行われる場合、守備側競技者に指示を与える時間をゴールキーパーに与えた後、攻撃側競技者に指示を与える時間をガイドに与える。もう一方の審判はゴールキーパーエリアのラインを確認する。すべての準備が整った後にボールの後方から試合再開のための笛を吹く。



審判のシグナル

タイムアウト



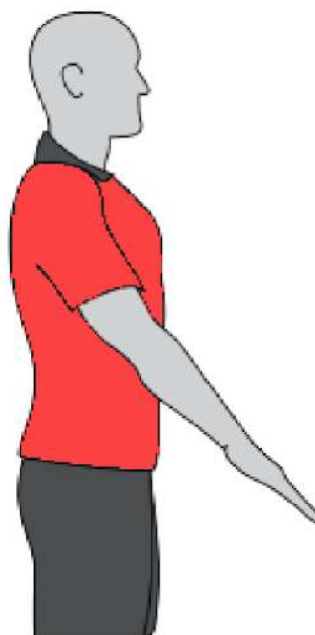
キックオフ/試合の再開



コーナーキック



ゴールクリアランス



アドバンテージ



競技者の番号:



1番



2番



3番



4番



5番



6番



7番



8番



9番



10番



11番



12番



13番



14番



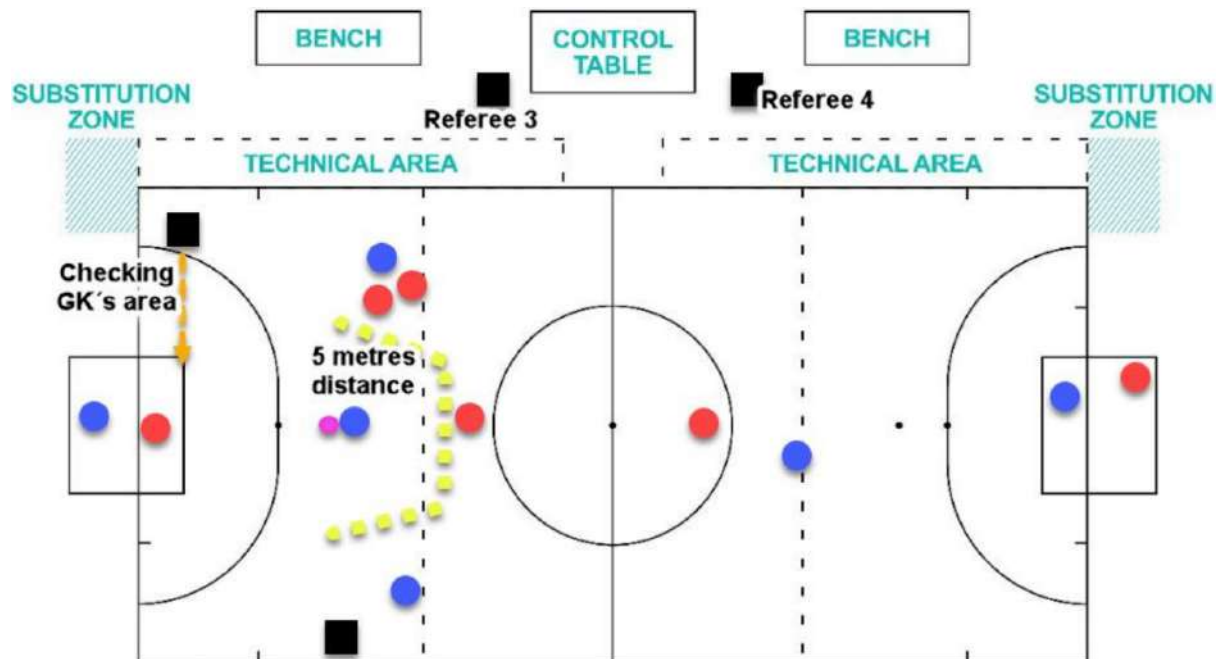
15番

第2ペナルティーキック

第2ペナルティーキックが行われる際には、コントロールテーブルに向ってシグナルをした後、主審または第2審判は以下の手順で試合を再開する。

- ・ボールの音を鳴らしてキッカーを呼ぶ
- ・キッカーのアイパッチを確認する
- ・他の競技者が確実に規定の距離をとっていることを確認する
- ・キッカーの左側にポジションをとる
- ・もう一方の審判とアイコンタクト
- ・ゴールキーパーに準備ができていることを確認する (“Keeper ready?”)
- ・キッカーに情報を与えるための時間をガイドに与える (“Guide”)
- ・再開の笛を吹く

もう一方の審判はゴールキーパーエリアのラインを監視する



ペナルティーキック

ペナルティーキックが行われる際には、コントロールテーブルに向ってシグナルをした後、主審または第2審判は以下の手順で試合を再開する。

- ボールの音を鳴らしてキッカーを呼ぶ
- キッカーのアイパッチを確認する
- 他の競技者が確実に規定の距離をとっていることを確認する
- ゴールキーパーにゴールライン上にあるようシグナルで示す
- キッカーの左側にポジションをとる
- もう一方の審判とアイコンタクト
- ゴールキーパーに準備ができていることを確認する (“Keeper ready?”)
- キッカーに情報を与えるための時間をガイドに与える (“Guide”)
- 再開の笛を吹く

もう一方の審判はゴールラインを監視する

